

議事要旨(1) IASB公開草案「IFRS実務記述書:財務諸表への重要性の適用」へのコメント対応

関口常勤委員及び阿部専門研究員より、IASB公開草案「IFRS実務記述書:財務諸表への重要性の適用」(以下「本ED」という)へのコメント・レター案について、審議資料に基づき説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 本EDで提示されている文書案は重要性の判断を行う上では有用ではない、本EDの内容の検討よりも開示に関する取組みに関するその他の議論を優先させるべきである、というコメントの方向性を支持する。
 - 本コメントを踏まえた上で、今後の国際的な意見発信の場において、識別されている問題点を解決するために「重要性」よりも優先して議論すべき事項を提言することも検討してはどうか。

ある委員より、次のコメントがあった。

- IASBの開示に対する取組みの一環として本EDの内容に期待をしていたが、実際の文書案はそれほど評価できるものではなかった。今後、会計基準アドバイザー・フォーラム(ASAF)会議などで、本ED以外に、開示の有用性を高めるための議論が行われる予定があれば教えて欲しい。

これらに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 開示に関する問題を解決するために、IASBは、開示要求そのものの改善と、開示要求の枠内で行われる経営者の判断のあり方の改善に取り組んでいる。本EDの取組みは後者に対応するが、これまでの専門委員会及び企業会計基準委員会の審議では前者に取り組むことが重要ではないかという考えが多くの関係者から示されている。IASBは、今後、前者(すなわち、開示要求そのものの改善)について一層の検討を予定しており、事務局では、今後、これに対して十分な意見発信を行っていきたいと考えている。

審議の後、字句等の修正は委員長に一任することを前提に、コメント期限である2016年2月26日までにIASBに本件に関するコメント・レターを提出することが了承された。

以 上